

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2018年度（後期）指定公募

「在宅医療推進のための学会等への共催」完了報告書

日本ACP研究会 第4回年次大会

The 4th Annual Meeting of the Japanese Association for Clinical Research on Advance Care Planning
(JACRA)

ACPの実践

大会長：會津 恵司（春日井市民病院 がん相談支援センター部長）

事務局：春日井市民病院 がん相談支援センター

〒486-8510 愛知県春日井市鷹来町 1-1-1

TEL：0568-57-0684 / FAX：0568-57-0067

ホームページ：https://plaza.umin.ac.jp/acp_meeting4/index.html

【団体名】

日本アドバンスケアプランニング（ACP）研究会

【代表者名】

日本アドバンスケアプランニング（ACP）研究会第4回年次大会 大会長
會津 恵司（春日井市民病院 がん相談支援センター部長）

【理念】

日本は現在、世界のどこも経験したことの無い超高齢社会に突入している。超高齢者の疾患特性等により、これまでの「治す医療」から「治し支える医療」への転換が求められている中で、住み慣れた地域や在宅で最期を迎えるなど、ご自身の療養についての希望を持つ人も増えている。国内の動きを見ると、2007年に厚生労働省から「終末期医療（注：現在は「人生の最終段階における医療」）の決定プロセスのガイドライン」で、患者本人の意思が最大限尊重されることが明記されたが、この一方で、日常臨床においては、「人」を支える姿勢やそのスキルについて、ほとんど蓄積がない状況といえる。

そのような背景より今後の日本版 ACP の実践のありかたの検討をはじめ、日本全国への ACP の普及啓発をも目指した ACP 研究会を立ち上げる運びとなった。ACP は医療者のみならず、様々な専門職が関わり、本人の希望する人生を支え、かつ、そのような地域を作っていく活動である。

このように本研究会は、全国におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の研究及び研修を推進し、地域住民、患者家族、そして、医療・ケアに携わる多職種が、少しでも早い段階から、前もって、人生の最終段階に向けて、継続的に対話を重ねる医療文化の普及発展に寄与することを目的とする、在宅医療や地域包括ケアの土台部分をささえる活動を展開している。

【沿革・歴史】

平成 28 年 2 月 9 日 アドバンスケアプランニング（ACP）研究会設立

平成 30 年 9 月 1 日 日本アドバンスケアプランニング（ACP）研究会に名称変更

【過去の研究会】

平成 28 年 6 月 11 日 第 1 回年次大会（ウイंकあいち）開催

大会長：国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部長 三浦久幸

平成 29 年 9 月 2 日 第 2 回年次大会（愛知芸術文化センター）

大会長：社会医療法人恵和会 西岡病院 五十嵐 知文

平成 30 年 9 月 1 日 第 3 回年次大会（いわて県民情報交流センター）開催

大会長：岩手県立二戸病院副院長 高橋 浩

【開催目的】

- ・アドバンス・ケア・プランニング（ACP）を医療、介護、福祉に携わる者が連携して推進するため、ACP を既実践している施設や実践を検討している施設が一堂に会し、ACP を実践するうえでの課題や方策について議論することを目的に開催する。
- ・市民公開講座を開催することにより、人生の最終段階に向けて継続的に対話を重ねることへの必要性を地域住民や患者家族等に対し理解促進を目指す。また、研究会において講演、パネルディスカッション等の手法を用いて、平成 26 年度と平成 27 年度に人生の最終段階における ACP モデルを展開した医療機関及び ACP を積極的に取り組んでいる自治体や団体等から講師を招聘し、地域の医療機関等とともに議論を展開する。

【開催概要】

①市民公開講座

日 時：令和元年 9 月 14 日（土）正午～午後 3 時 30 分

場 所：東部市民センター

〒486-8510

愛知県春日井市鷹来町 1 丁目 1 番地 1

対 象：不問

参加人数：418 人

プログラム：日本 ACP 研究会第 4 回年次大会プログラム・抄録集参照

②研究会

日 時：令和元年 9 月 15 日（日）午前 8 時 30 分～午後 7 時 40 分

場 所：ホテルプラザ勝川

〒486-0931

愛知県春日井市勝川長 1 丁目 5

対 象：医療、介護、福祉従事者

参加人数：578人

内訳 医師・歯科医師：73人 その他 505人

プログラム：日本ACP研究会第4回年次大会プログラム・抄録集参照

今回の研究会年次大会のプログラムの一部は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成によるものである。

【成果・課題】

全国から578名の参加者をいただき盛況のうちに日本アドバンス・ケア・プランニング（ACP）研究会第4回年次大会を終えることができた。

今回の口演、ポスター発表を通して、ACPの実践について発表いただき、日本各地、各施設、在宅での取組が進んできており、その成果を共有することができた。様々な意見が交わされることで課題も浮かび上がった。自施設ではACPを行い本人の意向に沿って治療やケアをすることができたが、患者の療養場所が移動した時に、患者の意向をどのように医療ケアの専門職が共有するかについてや、まだ医療、介護従事者のなかでACPの考え方が普及していないことなどが指摘された。しかし、それぞれの現場でACPに取り組むことで、患者さんの人生や患者さんを人として尊重する視点が、医療ケアの従事者の中で広まっていくことへの期待が持てるとの意見もみられた。今後の大会でも好事例や課題を抱えた事例の発表等は継続していく必要があると思われる。

シンポジウムでは、ACPを表明しておく書式や様式について話題に上がった。安易な書式や様式は、ACPが機械的な聞き取りに終わる可能性があり、本人や家族、医療者で話し合うプロセスを重視して本人の意向を尊重し共有するACPの本来の目的が達せられないのではないかという問題点が指摘され、会場の参加者にも支持が得られた。

今回は地域住民を対象にACP、在宅医療の普及啓発を目的に、市民公開講座を開催した。岐阜県で在宅医療を実践されている小笠原文雄先生に講演いただき、どんなに困難な環境であろうと、ACPを行い本人、家族が満足できる在宅医療が行えることを、多くの患者さんのケースを紹介してもらい、来場した市民の方から賛同が得られていた。今後も市民や国民にむけてACPを発信していくことも本研究会の責務である。

アドバンス・ケア・プランニングの愛称が「人生会議」となり、11月30日が「人生会議の日」と決まり、ACPが医療、介護・福祉の従事者のみならず、国民全体への啓発が進められていく段階になっており、ACPを担う専門職の関心の高さからも、ますます本研究会の活動を充実していく必要があることを認識した年次大会となった。

以上